

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 16 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2016

課題番号：26300036

研究課題名(和文) 現代エチオピア国家の形成と農村社会における女性の役割に関する実証的研究

研究課題名(英文) Research on women's roles in rural society and state formation of Contemporary Ethiopia

研究代表者

石原 美奈子 (ISHIHARA, Minako)

南山大学・人文学部・教授

研究者番号：20329741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代エチオピアの農村女性が果たしてきた政治・社会・宗教的役割を、現地調査を通して明らかにすることを目的とする。エチオピアは、多民族・多宗教の国家であるが、家父長制的であるという共通点をもっている。女性の権利やジェンダー問題は、世帯や共同体内だけでなく、国家レベルでも重要な課題とみなされてこなかった。現EPRDF政権下でもたらされた政治変化のもとで、ジェンダー問題に注目が集まるようになり、女性は社会参加の機会が拡大したとされる。だが、現地調査を通して、本研究は依然多くの問題が残されていることを明らかにした。成果は『現代エチオピアの女たち』(2017年、明石書店)として刊行された。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the political, social and religious roles of rural women in contemporary Ethiopia, taking an anthropological approach. Despite the cultural and religious diversity, Ethiopian societies shared a common feature of patriarchy. Women's rights and gender issues were regarded secondary not only inside the household and community, but also by policy-makers. The political changes brought about by the present EPRDF regime changed the tide and gender issues came to the fore, opening up opportunities for women to join the society not only as housewives and employed maids but as students, social workers, and politicians, occupations hitherto occupied by men. However, our research, the outcome of which was published in "Women of Contemporary Ethiopia" (2017, Akashi-shoten) reveals many issues remaining that need political and social attention.

研究分野：文化人類学

キーワード：農村女性 エチオピア 国家 キリスト教 イスラーム 社会変化

### 1. 研究開始当初の背景

1991年に成立した現EPRDF(エチオピア人民革命民主戦線)政権のもとで、エチオピアでは様々な分野で規制緩和が進み、都市部では女性の社会進出も限定的ながら進んでいる。だが人口の8割が住んでいる農村部においては、依然として女子教育への意識が低く、女性が主に担う家事労働の非効率が目立ち、早婚/児童婚は残存しており、出産率の低下は滞っている。そしてこうした女性をめぐる保守的傾向は、農村部の生活水準の停滞にもつながっている。農村部の変革は、道路の建設や電気の導入といったハード面から実現できる部分もあるが、農村部の生産活動を実質的に支えている女性の意識改革や、知識や技術の伝達を含めた広義の教育などソフト面の改革を伴うことが必須条件となっている。

これまでエチオピア農村部の女性の実態を詳細に描いた民族誌としてHelen Pankhurst著のGender, Development and Identity(1992)が代表的である。本書の意義は大きい。前政権下の1980年代後半のエチオピア北部のアムハラ農村社会の女性たちを対象にした民族誌であり、現政権下で大きな変貌をとげているエチオピア各地の農村部の実情を描いた包括的な研究が俟たれていた。今日エチオピア農村部の女性たちは、規制緩和や商品作物の価格上昇による増収にとともに、さまざまな生き方・ライフコースの選択が可能になっており、そうした選択肢を女性たちがどのように受け止め、どのような規準で選び取り、女性たちの生き方の変化が農村部の社会変化にどのような影響を与えているのかについて明らかにする研究が十分になされていなかった。

### 2. 研究の目的

一口にエチオピア農村部の女性といっても、民族・宗教や住んでいる生活環境はさまざまである。家族計画や女子教育の普及には地域差があり、民族・宗教の違いがその地域差にどのような影響を与えているのか、実証的な研究はなされたことがなかった。本研究は、エチオピアの主要民族であるオロモ・アムハラ・ティグライおよび少数民族の一つ、カファを対象にし、民族・宗教間の比較を行いながら、現政権下での施策、新たな技術や知識の導入、都市部・海外への出稼ぎ傾向などが農村の女性の生活、ひいては家族・共同体のあり方にどのような変化をもたらしてきたのか、明らかにすることを目的とした。

エチオピア農村部の女性は、大多数が農作業と育児・家事によって農家を支える存在であった。だが、少数ながら反政府組織の兵士となったり、あるいは霊媒師や聖者となって男女の信者に治療行為を施したり、といった傑出した活動を通して歴史に名を残すものもいた。そうした女性たちの足跡を記録に残すことも本研究の目的の一つであった。

### 3. 研究の方法

本研究は、研究代表者のほか、研究分担者4名、研究協力者1名から構成され、研究協力者以外は、10年以上エチオピアで調査・研究した経験をもっており、現地語や現地事情に精通した現地調査のエキスパートである。各メンバーの研究対象は民族・宗教が異なる。民族ではアムハラ・オロモ・ティグライ・カファがあり、宗教はキリスト教徒もムスリムもいる。また、学問領域でいうと、文化人類学4名、開発社会学1名、歴史学1名となっており、超領域的な研究グループとなっている。専門領域は異なるが、各メンバーとも、それぞれのテーマに応じてエチオピア国内およびアラブ諸国で現地調査を遂行する点では共通していた。研究方法は、基本的には各メンバーにつき1年に1~2ヶ月の現地調査(インタビューや参与観察)を行うほか、必要に応じて現地で文献資料調査を行った。

### 4. 研究成果

1974年以前の帝政期、エチオピアは家長制的で封建的な社会が大勢を占めていた。帝政崩壊後、デルグ政権下で封建的体制が崩れ、農村社会では女性組合が形成されるなど女性の権利が見直されるようになるかと思われたが、組合は行政の末端組織として機能するに留まった。だが1991年にEPRDFが政権奪取した後、大きな社会変革もたらされた。さまざまな分野での自由化路線と、国際社会の人権問題への関心を意識したさまざまな改革が導入されるなかで、女性問題への取り組みが行政レベルで始まった。だが、省庁や地方自治体のレベルで「女性問題」を冠した部署を開設すること、農村社会に変革をもたらすことは別問題であった。とはいえ、農村社会の女性たちは、携帯電話やネットなど、現代社会がもたらした新しいツールを通して、依然とは異なる仕方で人生選択を始めている。松村圭一郎は、農村女性たちが現政権下でつかんだ権利を用いて単身、石油産出国に出稼ぎに行く現象を明らかにした(松村 2017)。

EPRDF政権のジェンダー問題への取り組みは、デルグ政権期に反政府武装闘争を展開するなかで経験的に編み出した政策を踏襲したものであった(眞城 2017)。EPRDF政権は、デルグ政権から「解放」した地区で土地改革を行い、従来認められてこなかった女性の土地保有権を認めた(児玉 2017)。

女性たちは日常生活を営む上で、女性ならではの悩みを抱えることがある。病院や教会・モスクなどでは解決できないそうした悩みに解決の糸口を見出してくれるのが霊媒師や聖者などである(松波 2017、吉田 2017)。

本研究は、女性・ジェンダー問題に焦点をあてることで、エチオピア社会・国家が抱えてきたさまざまな歪や矛盾を明らかにしてきた。そうした歪や矛盾は、現地調査を通し

て人々の声に耳を傾ける研究を通して、はじめて明らかにされる事柄である。

本研究の成果は、研究代表者・分担者が国内外で開催された学術大会（日本ナイル・エチオピア学会、日本アフリカ学会、日本文化人類学会、および2015年にワルシャワ大学で開催された第19回国際エチオピア学会）で個人研究発表を行ったほか、さまざまな分野の学術雑誌に論文として投稿された。また、研究代表者が編著者となり、分担者や協力者が執筆者の大半を占める書物（『現代エチオピアの女たち』）も刊行された。エチオピア研究において、本書が刊行された意義は大きく、将来的には英語訳を目指し、その学術的意義を高めることを目指す計画である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2件)

眞城百華

2016 「エチオピア・ティグライ州における政治と女性：ティグライ女性協会の活動を中心に」『女性学研究』23号, pp.67-75.

Ishihara, Minako

2016 “The Role of Women in Tjianiya: From Three Oromo Religious Centers in Western Ethiopia,” *Annales d’Ethiologie* 30-2015, pp.21-43.

〔学会発表〕(計 8件)

Maki, Momoka

“Women’s Fighters in TPLF: Women’s Agency in the Struggle and Post-Conflict Society,” The 19<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies, 2015年8月26日、ワルシャワ大学、ワルシャワ市（ポーランド）

Ishihara, Minako

“Change in the Significance of Affiliation to Tariqa: the Case of Tjianiya in and around Jimma,” The 19<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies, 2015年8月25日、ワルシャワ大学、ワルシャワ市（ポーランド）

吉田早悠里

「『もめごと』との向き合い方 エチオピア農村部に位置する一集落の事例から」日本文化人類学会第49回学術大会、2015年5月31日、大阪国際交流センター（大阪府・大阪市）

児玉由佳

「エチオピア・アムハラ州における土地不足をめぐる小農の生存戦略 生計多様化の議論再考」日本アフリカ学会第52回学術大会、2015年5月24日、犬山国際観光センター（愛知県・犬山市）

眞城百華

「エチオピア・TPLF解放区における女性解放と女性兵士」日本アフリカ学会第52回学術大会、2015年5月24日、犬山国際観光セ

ンター（愛知県・犬山市）

Ishihara, Minako

“On the Translocality of Pilgrimage Centers: Sitti Momina and the Faraqasa System in Ethiopia,” 国際ワークショップ “Comparative Analysis of Pilgrimage and Sacred Sites”, 2014年5月25日、筑波大学東京キャンパス（東京都・文京区）

児玉由佳

「エチオピアの土地法と慣習の相互作用についての予備的考察—アムハラ州農村部の事例—」日本アフリカ学会第51回学術大会、2014年5月24日、京都大学（京都府・京都市）

石原美奈子

「現代エチオピアのスーフイズム ティジャーニーヤの場合」日本ナイル・エチオピア学会第23回学術大会、2014年4月20日、広島市まちづくり市民交流プラザ（広島県・広島市）

〔図書〕(計 1件)

石原美奈子編著『現代エチオピアの女たち 社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』(明石書店、2017年2月、302p.)

石原美奈子「プロローグ」(pp.9-26)

児玉由佳「第1章 土地を獲得する女性たち」(pp.28-45)

松村圭一郎「第2章 越境する女性たち」(pp.46-78)

眞城百華「第5章 戦う女性たち」(pp.146-179)

石原美奈子「第6章 キリスト教国家とムスリム聖女」(pp.180-233)

松波康男「第7章 ハドラに集う女性たち」(pp.236-260)

吉田早悠里「第8章 『生活の向上』を目指す」(pp.261-288)

石原美奈子「エピローグ」(pp.289-291)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

石原美奈子 (ISHIHARA, Minako)

南山大学・人文学部・教授

研究者番号：20329741

(2)研究分担者

児玉由佳 (KODAMA, Yuka)

独立行政法人日本貿易振興機構アジア

経済研究所・地域研究センター・主任研究

員

研究者番号：10450496

眞城百華 (MAKI, Momoka)

上智大学・総合グローバル学部・准教授

研究者番号：30459309

松村圭一郎 (MATSUMURA, Keiichiro)

岡山大学大学院・社会文化科学研究科・

准教授

研究者番号：40402747

吉田早悠里 (YOSHIDA, Sayuri)

名古屋大学・高等研究院・特任助教

研究者番号：20726773

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

松波康男 (MATSUNAMI, Yasuo)

一橋大学大学院・博士課程後期

大坪玲子 (OTSUBO, Reiko)

東京大学・総合文化研究科・学術研究員

研究者番号：20509286